

インド国貨物専用鉄道運営・維持管理支援 プロジェクトの受託について

平成27年9月16日
日本貨物鉄道株式会社

当社は、当社が持つ鉄道貨物輸送に関するノウハウを積極的に海外に輸出することを目的として、平成26年1月に専門の部署として「海外事業室」を立ち上げ、以降、調査・コンサルティング・研修等の業務について部分的な受託を行ってまいりましたが、このたび、「JICA（独立行政法人国際協力機構）」が公示した「インド国貨物専用鉄道運営・維持管理支援プロジェクト」に対して、当社が主体となる初の海外技術移転プロジェクトとして、日本工営株式会社と共同で下記の内容により、これを受託しました。

1. プロジェクト受託の経緯

インド国は現在、国内を縦横断する貨物専用鉄道「DFC (Dedicated Freight Corridor)」として、「西回廊」と「東回廊」の2路線の建設を進めており、両路線は2018年に部分開業を予定しています。（下記「4.」参照）

特に「西回廊」は、日本政府の円借款支援として「JICA」が事業を実施しており、軌道工事や信号設備工事等は日本企業が受注しており、日印共同プロジェクトである「デリー・ムンバイ間産業大動脈構想（DMIC）」の屋台骨を成す主要物流インフラとして位置づけられています。

この「DFC」の運営については、インド政府によって設立された「DFCCIL (Dedicated Freight Corridor Corporation India Limited)」によって行われることとなっておりますが、「JICA」は、「DFC」の効率的な運営・維持管理、並びに貨物輸送能力の向上を実現していくため、新たに技術協力プロジェクトとして、日本の技術・ノウハウに基づく支援と技術移転を実施することを「DFCCIL」と合意し、先般、コンサルタントを選定するための公示を実施しました。

そこで当社では、インドでの鉄道コンサルティング経験が豊富な日本工営株式会社と共同でこれに応募し、今般受託することとなりました。

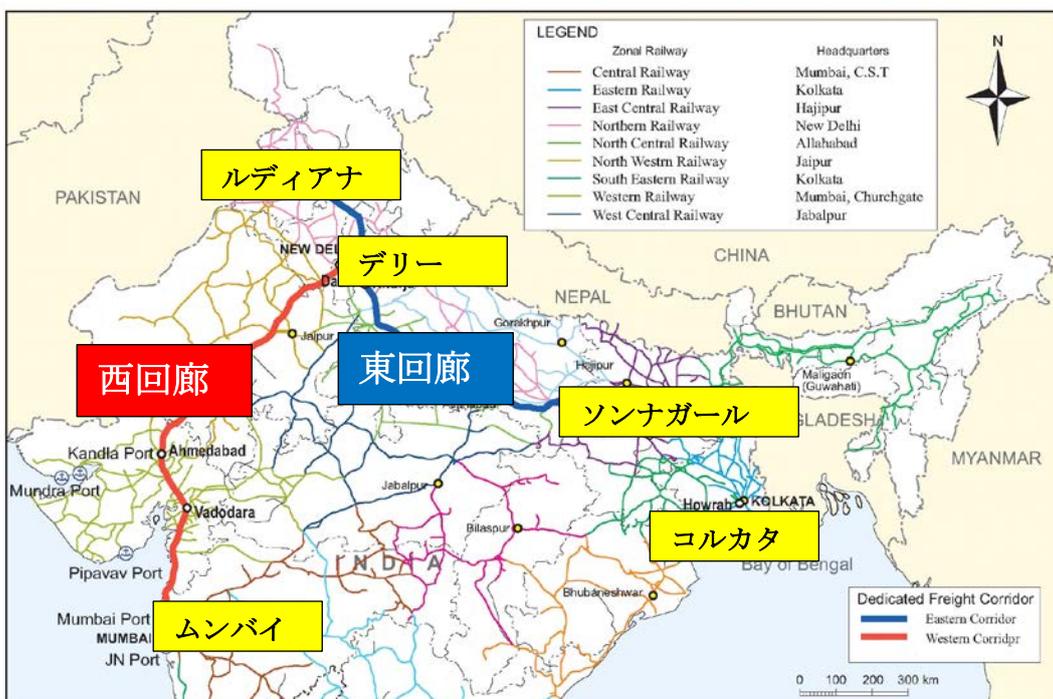
2. 本プロジェクトで実施される支援・技術移転業務

- 「DFCCIL」のビジネスプラン（事業計画）へのアドバイス
- 「DFCCIL」の組織および業務運営体制（要員体制）へのアドバイス
- 「DFCCIL」の設備維持管理計画へのアドバイス
- 貨物駅、接続駅における駅業務の効率化についてのアドバイス
- コールドチェーン、サプライチェーンマネジメントに鉄道貨物輸送を対応させるための設備や制度の整備についてのアドバイス
- 鉄道貨物輸送の管理と利便性向上のためのITシステム導入についてのアドバイス
- 日本の技術・ノウハウの移転を行うための日本国内研修の実施

3. プロジェクト実施期間

平成27年9月より約1年間

4. 「DFC」路線図



(西回廊：デリー～ムンバイ、東回廊：ルディアナ～ソナナガール)